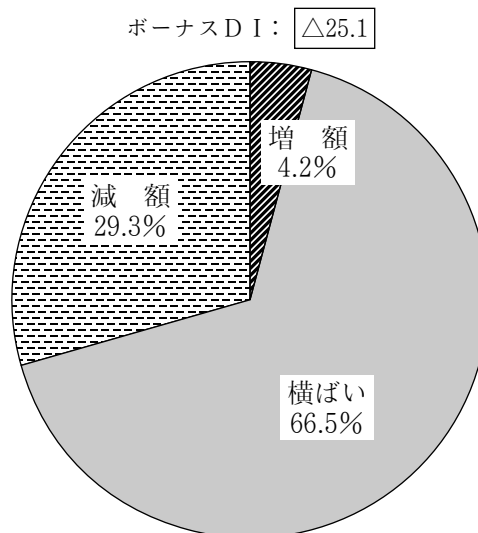


調査レポート

2020年夏季 県内民間ボーナス支給見通し － 減額傾向が強まり、ボーナスDIは大幅に低下 －

夏季民間ボーナス支給見通し（全産業）



「第88回県内企業経営動向調査」から

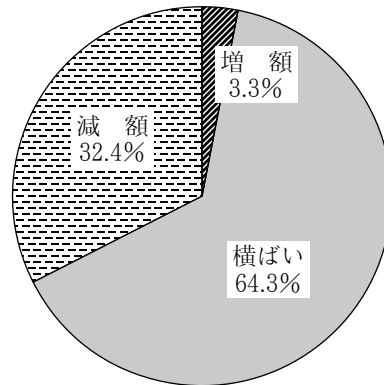
当行の第88回県内企業経営動向調査（4月上旬実施、回答企業293社）によると、今夏のボーナス支給予定額は、昨夏の支給額に対して「増額」回答先割合が4.2%（昨夏調査6.7%）、「横ばい」回答先割合が66.5%（同84.6%）、「減額」回答先割合が29.3%（同8.7%）となった。

この結果、夏季のボーナスDI（「増額」回答先割合－「減額」回答先割合）は△25.1となり、昨夏（△2.0）と比べて23.1ポイント低下して3期連続のマイナス（「減額」超）となった。

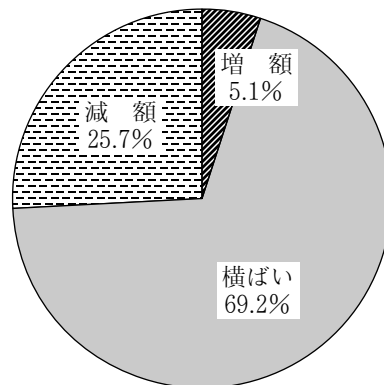
ボーナス見通しに影響を与える要因のひとつである県内経営者の景況感は、今回実施した企業経営動向調査において、海外経済の減速や消費税の増税等のマイナス要因に加え、年明け以降は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、大幅に悪化した。2020年度上期の見通しについても、同感染症の終息時期が見通せないなかで受注、生産、売上、収益とも減少を見込む先が大幅に増加している。そのため、業況見通しDI（「好転」回答先割合－「悪化」回

夏季民間ボーナス支給見通し

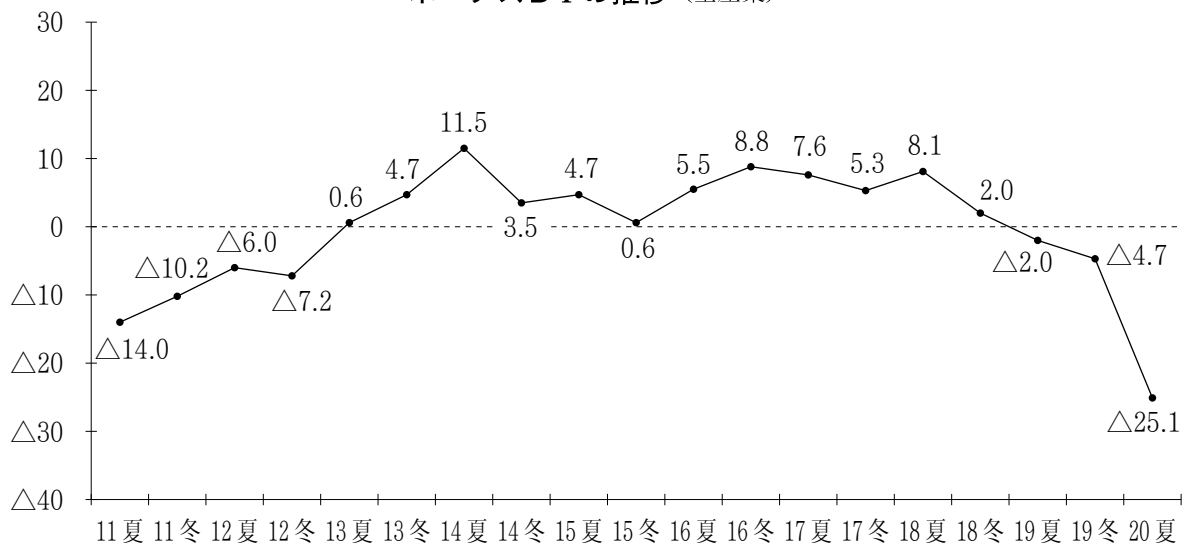
（製造業） ボーナスDI： △29.1



（非製造業） ボーナスDI： △20.6



ボーナスDIの推移（全産業）



●— ボーナスDI（注）

（注）DI =（「増額」回答先割合）－（「減額」回答先割合）

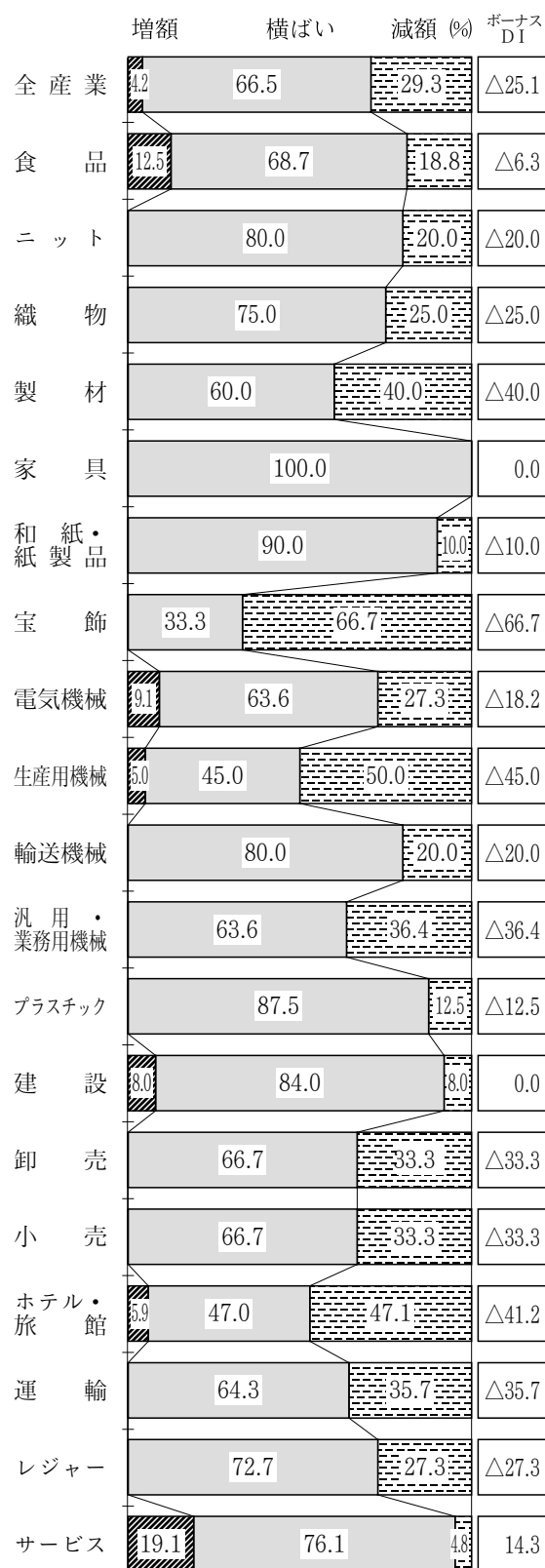
答先割合)も、東日本大震災直後に実施した2010年度下期調査を下回り、昭和52年の調査開始以降で最低水準となっている。このように、県内企業の経営者は業況の先行きに対して非常に厳しい見方を示しており、こうした状況がボーナス支給見通しにも反映されたと考えられる。

なお、影響を与えるもうひとつの大きな要因である雇用情勢をみると、企業経営動向調査において、技術力のある人材の確保など、質的な面での不足感は解消されていないものの、量的な人手不足感は製造業、非製造業ともに緩和されてきている。また、有効求人倍率も、このところ低下傾向にある。そのため、雇用確保のために労働条件の改善を図る(ボーナス支給額を増額する)動機は薄れている。

業種別にみると、製造業は、「増額」回答先割合が3.3%(昨夏7.9%)、「減額」回答先割合が32.4%(同11.8%)となった。この結果、ボーナスDIは△29.1と、昨夏(△3.9)と比べて25.2ポイント低下し、3期連続の「減額」超となった。このうち機械関連では、生産用、汎用・業務用、輸送、電気の全機械で「減額」超となった。機械関連以外も、家具を除くすべての業種で「減額」超となった。

非製造業は、「増額」回答先割合が5.1%(昨夏5.4%)、「減額」回答先割合が25.7%(同5.4%)となった。この結果、ボーナスDIは△20.6と昨夏(0.0)と比べて20.6ポイント低下し、2期連続の「減額」超となった。業種別にみると、サービスが「増額」超となった一方、ホテル・旅館、運輸、小売、卸売、レジャーは「減額」超となった。

夏季民間ボーナスの業種別支給見通し



山梨中銀TKC連携ローン

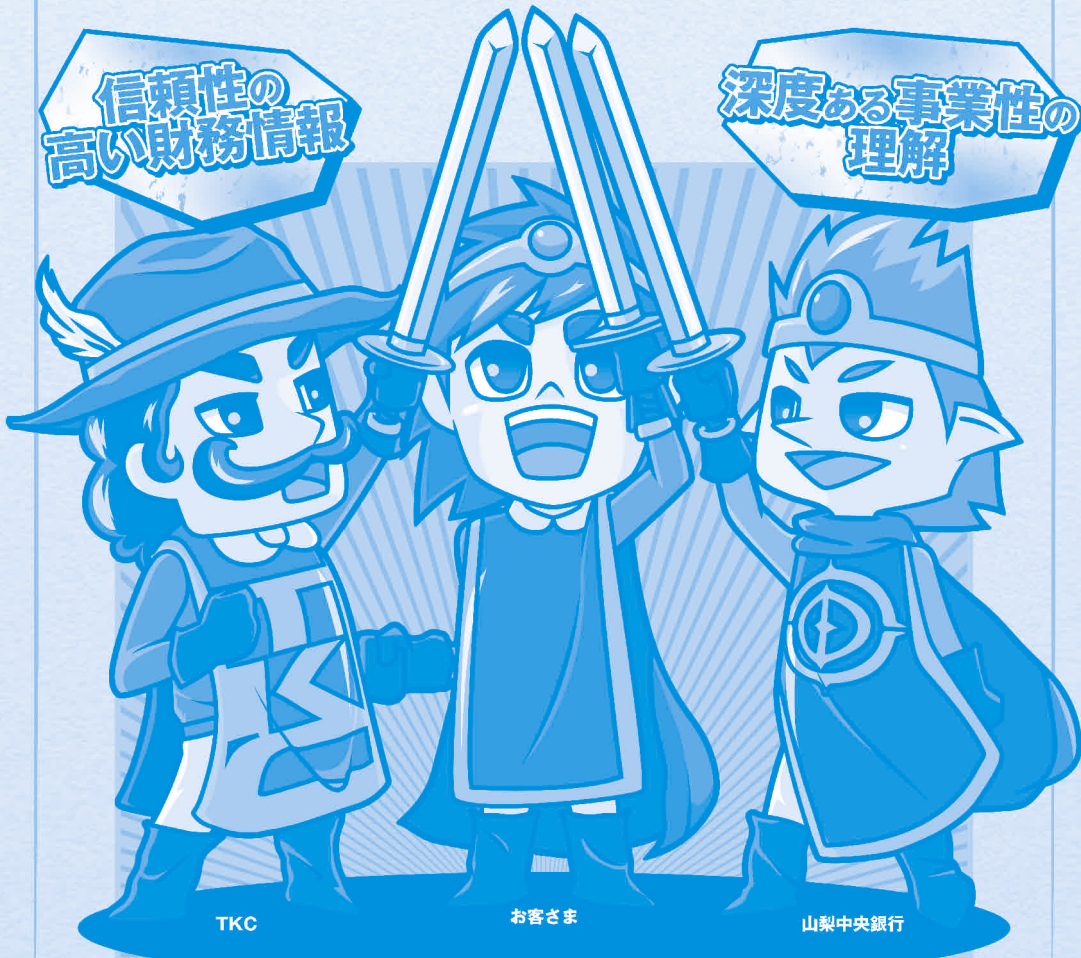
甲斐の三銃士®

担保・保証人不要

最大0.5%優遇

信頼性の
高い財務情報

深度ある事業性の
理解



当行とTKCは連携して、お客さまの成長・経営改善支援に積極的に取り組んでまいります。

ふれあい、さわやか

山梨中央銀行

詳しくは山梨中央銀行の窓口または担当者にお問い合わせください。